

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400523		
法人名	特定非営利活動法人ウエルネットぎふ		
事業所名	ロングステイホームぬくもり		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町新町2504番地1		
自己評価作成日	令和3年9月15日	評価結果市町村受理日	令和3年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400523-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和3年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、デイサービスを併設しており、デイサービス利用者で交流しながらレクレーションや機能訓練を盛んに行っていました。しかし、新型コロナウイルス感染予防のため、フロアから出る機会がめっきり減ってしまい、フロアでも楽しめる工夫を積極的に行っています。毎月の作品作り、身体を使ったレクレーション・体操、脳トレはもちろん、食べたいものを提供したい！という職員の工夫で、昼食やおやつにはお一人お一人が食べたいものを可能な限り提供する機会を毎月作ったり、反対に漬物の作り方を人生の先輩から教えていただいたり、得意なことを支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長及び管理者、職員の間関係も良好であり、一丸となって利用者ファーストの支援の向上と改善に努めている。日々、アイデアを出し合いながら、利用者と家族の意向を利用者サービスに反映させ、希望がある場合は医療機関と協働の下、看取りケアを行っている。特殊入浴機器を導入しており、利用者が寝たきりの状態となっても安全な入浴支援を行うことができ、職員の腰痛予防などの負担軽減効果にも繋がっている。新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解除がされたことから、併設のデイサービス利用者との交流や地域活動等も徐々に再開していく予定としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関に理念が掲示されており、利用者やご家族様との間に問題等が発生した時は理念に基づき解決に向けた会議を開催し職員全体の意識高揚を図っています。	日々、理念を念頭に置き、利用者支援に取り組んでいる。職員会議では、理念に基づいたケアが適切に行えているかを振り返り、サービスの向上に努めている。「利用者が地域の中で心穏やかに暮らせる支援」についても理念として掲げたいと、見直しも検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で、日常的な交流はほとんどありませんが、感染状況が落ち着いているときに、施設周辺近所を散歩したり、近所に多くある寺社を参拝し、ぼたんや藤の花見で、竹鼻らしさを感じていただきました。	以前は、自治会や町内会の会員として、様々な行事や活動に参加したり、近隣の商店街の人たちとも交流を行っていた。コロナ禍で、ほとんどが制限されていたが、緊急事態宣言も解除となり、今後も感染予防対策は継続し、地域との交流・活動を再開していく予定である。	今もコロナ禍にあり、自治会・町内会、民生委員や地域との交流が滞っている。新しいスタッフと共に、地域関係者の力を借りながら、利用者が地域住民との交流を再開できることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	街灯を設置し地域の防犯に努める一方、ゴミ等の収集場所として駐車場の一角を提供しています。通り側の玄関横には、日本財団の自動販売機を設置しており、割安な飲料を提供しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年も新型コロナ禍の影響で書面だけの運営推進となりました。毎回アンケートをとってご意見を伺うようにしていますが、このような状況に感謝の言葉をいただくことが励みになっています。	今年度も運営推進会議は書面会議とし、委員には事業所の活動や利用者状況を報告し、事前アンケートを含めて、電話やメールで意見交換を行っている。それらを職員会議で検討しサービス向上につなげている。議事録は各委員に郵送し、内容を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、当施設の組織体制が変更になった事など相談を含めた連携を密にしています。	市の担当者とは、施設運営について相談したり、助言を得ながら、利用者サービスの向上に努めている。地域の感染状況を見ながら、電話やメールだけでなく、行政の窓口に出かけて、担当者との信頼関係を構築するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての説明書を作成し施設内でマニュアルに基づき研修しています。現在は身体拘束の該当者はいません。	身体拘束等の適正化検討委員会には、施設長や管理者、看護師、職員が参加し、3か月ごとに開催している。研修会や学習会を行いながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。判断が難しいケースについては、ケースカンファレンスを行い、見守りと共に適切な支援を行うよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてはマニュアルを作成し、これに基づき研修を実施。職員にそのような行動が見られた場合は個別に指導しています。		

岐阜県 ロングステイホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について研修を実施しています。今のところ必要性のある利用者はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の約款に基づき説明しており、詳細は別紙にて説明しております。質問や疑問点などが無いか確認をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在の新型コロナ禍の為運営推進会議の開催ができていません。ご家族様宛にお手紙にてご意見等を伺いましたが、運営に関するご意見等はありませんでした。	今もコロナ禍にあり、家族との面談機会が減少している。その為、手紙や通信で利用者の様子を伝え、事業所への理解が得られるよう努めている。また、家族にはアンケートを配布し、意見や要望を確認しながら、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催しており、職員の意見など話を聞く機会があります。またご意見箱を設置しているので言いにくい場合もこれを利用して情報の収集に努めている。	毎月開催の職員会議には、施設長と管理者が参加し、職員の意見を聴き、運営に反映するよう努めている。また、職員が直接、要望を出せるよう意見箱も設置している。日頃から管理者も現場に入ること、職員も意見を出しやすく、早急な対応で改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のキャリアパス制度を利用し、勤務状況を把握し働き甲斐のある職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員も増えておりますが、新型コロナ禍の状況を確認しつつ資格取得や研修、講習の調整をしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの影響で、研修や交流はZoomなどで参加するようになっていますが、勤務上でも限定されることが多く、苦勞しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	誰でも初めは環境が変わり不安や戸惑いや要望があると思うので、就寝前に居室に伺い傾聴し安心していただくように努めています。また、ご家族からの情報や希望を参考にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するにあたりご家族の不安や要望を伺いどのような支援が必要か具体的な話をするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活を把握し、趣味や得意な事など施設で出来ることを一緒に考え支援しているようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒にできる事は行動を共にして家族のような関係を築いています。話相手、洗濯物を畳む、食器を拭くなど何気ない行動に寄り添って支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当法人の運営理念を説明しご家族様との絆を大切に、ご家族様とも積極的に連絡をとっています。面会できない期間が長いので心苦しく思うことが多いです。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はコロナ禍でなかなか思うような支援ができませんが、状況が許されるようになってきましたら、馴染みの喫茶店や季節のお花見外出ができるようにしたい。	現在もコロナ禍にあり、面会制限を設けているが、利用者や家族の希望を受け、窓越しや間隔をあけての面会を実施している。近所の寺や神社での散歩など、人との接触を控えながら、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月のおやつ作りや共同作品作りなどで、1つのテーブルにて他の利用者と一緒に和気藹々協力しながら実施できるようにしています。利用者様同士、助け合っって作品を作ったりする場面が多々あります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年のサービス修了者は、看取りと転居だった。有料ホームへ転居された方は、その後転倒骨折入院し、転院となったとケアマネを通して連絡があった。必要に応じて相談できる関係性を大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で利用者の意向を確認し把握に努めています。新型コロナの影響で中々外出できないため、時には食べたいものを聞いて応えるようにしています。	本人や家族から入居前の情報を得たり、日々のケアで把握した利用者の意向を受け止め、本人本位の支援に努めている。食べたい物、やってみたいことなど利用者個々の思いや希望を聴きながら、それらが叶うよう工夫し、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス計画書にこれまでの暮らし方が記載してあるので、居室の飾りつけに工夫して寂しくないように努めています。ホームで作った作品を飾ったり、家族やペットの写真を飾ったりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	iPad記録を使用しており、カルテファイルを開かなくても、毎日の利用者の支援経過の記録、バイタルや食事量などの情報は全職員が共有し、活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで、利用者の問題点などを話し合い職員間の共通認識とし、サービス計画に反映するようにしている。	毎月の会議において、利用者個々の課題点を検討している。医師、看護師、家族の意見を事前に聴取し、話し合いながら介護計画に反映させている。また、サービス担当者会議に家族も参加してもらえるよう働きかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を記入し毎朝の申し送りと申し送りノートを利用して全職員が情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不穏や精神状態がよくない利用者があった場合や天候が影響した不安定な気持ちを和らげる為に散歩や外出など個別対応を行っている。		

岐阜県 ロングステイホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年は、新型コロナの影響で毎年の楽しみであったお祭りが中止となり、寂しい年でしたが、フロアでお楽しみ会を開催したり、天気の良い日に近くの散歩で気分転換を図って工夫しました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診があり、常に主治医との連携が取れています。看護師の週4日健康チェックを行い、医師とも連携がスムーズです。	かかりつけ医は、利用者と家族が選択している。協力医は、2週間に1度往診があり、職員として配置している看護師が、週1回の健康チェックも行っている。歯科などの外部クリニックへの受診は、家族の協力を得ており、医療情報は医療機関、家族、事業所で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師(正看)が勤務している為、些細な事でも職員は看護師に確認できる体制となっています。入浴時の全身観察にて状態の早期発見ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関(羽島皮膚科内科、青山内科)と、元のかかりつけ医(かわむら内科胃腸科)で羽島市民病院や松波総合病院と入退院の連携を保っています。入院中は病院と家族と細目に連絡を取り状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の意向を確認しています。終末期は家族の希望がある場合は看取りを行います。今年は1名看取りさせて頂き、都度ご家族とも連携をとり、親戚の方と面会する時間もとれ感謝されました。	契約時に、重度化や終末期の対応について書面で説明し、同意を得ている。救急対応や看取りケアが必要になった場合は家族と話し合い、医師の協力を得ながら支援している。緊急時には医師や看護師に相談し、適切に対応できるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており、異常時や緊急時は看護師等によりの確な指示ができるようにに常日頃訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを完備し、夜間の火災通報及び避難訓練を定期的実施しています。今年から水害対策にも力を入れシュミレーションを行いました。新型コロナの影響で地域の方とは訓練できていません。	防災マニュアルに沿って訓練を実施している。夜間の避難訓練、水害時の対応についても、シュミレーションを行っている。緊急事態宣言も解除された為、町内会長や地域関係者等と連絡を取り、協力体制作りに取り組む予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日頃より言葉づかいに気を付け、排せつや入浴時にはカーテンや恥ずかしさを意識した対応で利用者の尊厳を守ります。	利用者個人のプライバシーに関わることは、居室で対応するよう努めている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉遣いや丁寧な対応をするよう心がけている。排泄や入浴支援では、特に羞恥心に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の意思を汲み取り思いや希望に沿えるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「利用者ファースト」で運営方針でもある「職員と利用者が共に生活する喜びを知る」個々の利用者の状態を把握し、どのようにしたら喜んで頂けるかを聞き支援に繋げています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者が多く、身だしなみやおしゃれには大変気を使われます。入浴日前日には洋服を利用者と一緒に選び準備します。今年の夏まつりは室内で、浴衣をきておめかししました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント時には利用者の希望する物を職員と一緒に準備したり、味噌汁の具などをカットしたり食器なども率先して手伝っています。	副食は配食サービスを活用しているが、主食、汁物は職員が調理し、栄養バランスの良い食事を提供している。イベント食やおやつ作りは、利用者の希望メニューを反映させながら、調理に関われるよう支援し、食を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事摂取量や水分量を毎日把握し健康管理に努めています。また年中を通し夜間の水分補給ができるようペットボトルにお茶を入れて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕の口腔ケアの実施ご自身ができない利用者には介助し清潔保持に努めている。義歯などに不具合がある時はご家族様に連絡し歯科受診をしていただいている。		

岐阜県 ロングステイホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は排せつの感覚がない利用者には定期的にトイレ誘導し排せつを促している。夜間は転倒防止の為ホータブルトイレを用意し、利用していただいています。	個々の排泄リズムを把握し、声掛けや誘導で、トイレでの排泄が維持できるよう支援している。夜間はポータブルトイレや尿取りパット、おむつを併用し、転倒防止に努めながら排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて毎日の排便回数や便の状態を管理しています。便秘ぎみの利用者には水分摂取を多くしたり、薬が必要な場合は薬にてコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しみな入浴を安心、安全にできるよう機械浴にて実施しています。利用者の健康状態により、無理な入浴は避けて安全を優先しています。	入浴日は週2回を基本としているが、利用者の状態や希望に応じて回数を増やしている。できる限り湯船につかれるよう、安心・安全な機械浴で支援している。職員の身体的負担も軽減することができ、利用者とのゆとりをもった支援が行えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	13時から14時までは居室にて自由時間を過ごされており、ほとんどの利用者がベットで横になっています。短時間ですが身体が楽になったと言われてます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は利用者にとって必要不可欠なものであり、飲み忘れや誤薬がないように服薬表にて二人が確認してサインしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夕食後から就寝までの自由な時間は思い思いの時間を過ごしています。写経、ナンプレ、広告で折り紙など個人差はありますが自由な時間を尊重しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は新型コロナの影響で家族との外出などが出来ませんでした。面会は予約制・短時間・ソーシャルディスタンス・健康チェック等をした上で行いました。緊急事態宣言時は面会も自粛頂き心苦しい年でした。	感染予防対策として、行事や外出の制限をしていたが、事業所の庭で、レクリエーションやリハビリを行うなど、利用者が外気に触れられるよう工夫している。今後、感染対策を徹底した上で、利用者や家族との外出支援を検討している。	

岐阜県 ロングステイホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今はコロナ禍にて外出買い物などは行っていませんが、施設内で金銭の所持は紛失などの懸念があるので禁止しています。外出できた時は、喫茶店や買い物に同行し金銭感覚の保持に努めることができればと思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自ら電話したり手紙のやりとりする際はご家族の了解を得てからにしています。今年は家族面会が思うようにできなかったため、全員で家族に著中見舞いの絵手紙を書いて送りました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設のレイアウト上洗面所や厨房から利用者の状況が分からないので、特に夜間は不安な面があります。共有の壁には利用者の作品が掲示されており賑わっています。	空気清浄機を設置し、換気と温湿度調整を行っている。廊下は広く、安全に車椅子移動ができる。建物の間取りの都合で、共用空間の一部に死角となる場所があるが、利用者の動きを見守りながら、事故防止に努めている。利用者の季節の手作り作品を飾り、テーブルと椅子の配置を工夫しながら、利用者がゆったりと寛げ、楽しめる環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での一人一人の居場所は無いが、机の配置を変更して気分転換ができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族様が談話の為にいられても十分な広さがあり、テーブルや家具などを持ち込み思い思いに過ごされています。また作られた作品を部屋に飾って楽しんでおられます。	天井は高く、大きな窓もあり、明るさと開放感ある居室である。担当職員は、家族の協力を得ながら、季節の花や写真、利用者の作品等を飾りつけ、本人が居心地よく過ごせるよう支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内においてはトイレや居室の名前など目印や張り紙などで誘導の工夫をしています。		